

第27回 OB 会「山歩きを楽しむ会」

秋の「多摩よこやまの道／多摩の歴史と眺望コース」を歩く

◆実行計画

首記のコースは、「山歩きを楽しむ会」として2014年6月に既に実行されたコースですが、今回再度実施することになりました。当初候補に挙げられていたのは逗子の「二子山」、「三浦アルプス（仙元山）」でしたが、下見を試みた結果、予定のコースの一部が通行止めとなっていたなど予期せぬ事態があり断念せざるを得ず、急遽過去に好評だった首記のコースを選定し実行するに至ったという経緯がありました。（以下、前回ご案内のコース紹介文を採録致します。）

『多摩よこやまの道』は鎌倉古道、奥州古道、奥州廃道、古代東海道等と交差する古代の交通の要衝の道でした。

一般道を通る所もありますが、概ねは緩やかで歩き易い尾根道が続いています。

多摩丘陵から眺める山々の美しい姿に『眉引き山』とも呼ばれました。西国に派遣された防人が故郷を振り返りながら家族との別れを惜しんだという万葉ロマンの道でもあります。

そんな往時を偲びながらゆっくりと散策することが出来ます。

1. 開催日：2023年10月24日（火）

2. 集 合：10時30分 京王相模原線 若葉台駅改札出口

3. 参加者：10名＋事務局2名 計12名

大滝義宣、大根田研、高谷春雄、竹田隆雄、東 義、村岡義章、

門司和夫、吉田俊彦ご夫妻、若林澄治、（事務局）星野義明、松石雄祐

4. 行 程：歩行距離 約7km、所要時間 約3.5時間（含昼食休憩）

若葉台駅→1.2km→丘の上広場（よこやまの道東端）→1.3km→黒川散策路への分岐路→0.2km→もみじの広場→0.3km→展望広場（防人見返りの峠）→1.1km→古道五差路→0.4km→鎌倉街道→1.0km→一本杉公園（古民家＜昼食休憩＞0.7km→一本杉公園内スタジイの太木→0.7km→一本杉公園バス停・路線バス乗車（14:09 発 220 円）→（15 分）→多摩中央公園バス停 14:20 着→解散／（希望者）→※多摩センター極楽湯+懇親会→16 時頃解散
（※極楽湯及び懇親会費用：①銭湯入場料 950 円／人、②懇親会 2000 円／人）

◆コースマップ



多摩よこやまの道の由来

「万葉集にも詠われた防人の道」

あか こま やま の はが と
赤駒を山野に放し捕りかにて
多摩の横山徒歩ゆか遣らむ
かみつよほろくらはしへのあらむし め う ち べ の くろ め
豊島郡の上丁棕櫚部荒虫が妻 宇連部黒女

この万葉歌は、「赤駒を山野の中に放牧して捕らえられず、夫に多摩の横山を歩かせてしまうのだろうか」という防人の妻の心づくしの歌です。

東国から遠く北九州で国防の兵役につく防人は、再び故郷の土を踏むことはほとんどありませんでした。武蔵野を眺望できる横山の尾根道で故郷を振り返りながら、家族との別れを惜しんだ防人の姿が浮かんできます。

『よこやまの道』はこの万葉歌の「横山」から名づけました。

「横に長く連なる尾根のシルエット」

多摩丘陵は武蔵の国府（府中）から眺めると横に長く連なる山々でした。夕暮れにはその姿がシルエットで浮かび、「多摩の横山」、「眉引き山」とも呼ばれていました。



多摩よこやまの道記念碑（一本杉公園）

多摩よこやまの道

万葉集に「多摩の横山」と詠まれた多摩丘陵の尾根部に位置し、全長は約 10km におよびます。平成 27 年には、新日本歩道紀行 100 選「歴史の道」にも認定されました。

道の途中には、多摩市域を一望でき、天気良ければ富士山まで望める「防人（さきもり）見返りの峠」や多摩ニュータウンの街並みを見渡せる「展望広場」などの眺望ポイントのほか、随所に四季折々の自然を楽しむことができる自然観察ポイント、史跡や伝説などの歴史ポイントなどがある見所満載の散策コースです。

歴史の流れを知る古道を歩む



多摩よこやまの道東端（丘の上広場）



防人見返りの峠



◆実践記録

1. 若葉台駅改札口集合・出発



京王相模原線若葉台駅改札口集合 10:30



参加者点呼確認 10:30



イザ出発／エスカレータにて地上へ 10:31

2.(若葉台駅)～丘の上広場(よこやまの道東端)



まずは駅前から「丘の上広場」へ向かう 10:32



ガイド役の松石さんが先導 10:33



整備された幅の広い歩道を進む 10:38



広く平坦な市街地の歩道を進む 10:40



10:46



この道の先が丘の上の広場への入口 10:54



「多摩よこやまの道東端・丘の上広場」に到着 10:58 小休憩



広場からの眺望を楽しむ吉田夫妻 10:58



「丘の上広場」から眺めた西方のパノラマ景観 11:00

横たわる美しき尾根のシルエット

多摩丘陵は武蔵の国府(府中)から眺めると横に長く連なる山々でした。夕暮れ時にシルエットとして浮かぶその美しい姿は、万葉時代の人々から「多摩の横山」「眉引き山」などとも呼ばれていました。

道はるかな都へ～横山の尾根

多摩丘陵の尾根道に当るこの道を「多摩よこやまの道」と名付け、散策路として整備しました。この尾根道は古代より武蔵野と相模の東方を眺められる高台として、また西国と東国を結ぶ交通の要衝として活用されて来ました。この東西に伸びる尾根筋には鎌倉古道(鎌倉街道早ノ道、鎌倉街道上ノ道本路、軍事線路鎌倉道)や奥州古道、奥州廃道、古代の東海道などの重要な歴史街道(古街道)が南北に交差し、その痕跡が各所に残され、また様々な伝説等も語り継がれています。

古代～中世～江戸時代に渡って政治、軍事、文化、産業寺社参詣などを目的として、東国西国間の交易を行う商人や武士団、諸国霊場を行脚する巡礼者や都の貴人・官人、また幕末には新選組ゆかりの人々も行き来したと推測され、歴史とロマンを感じることのできる道です。

万葉ロマン～防人・見返りの峠道

万葉歌では望郷や別れを惜しむ道筋として「多摩の横山」が詠われています。古代、国防警備の目的で北九州に配置された防人という兵士たちは東国から陸路で都へ、さらに難波津(現在のおおさかふの海岸)から船で瀬戸内海を通り九州へ向かいました。再び生きては戻れない覚悟の彼らが、この「多摩よこやまの道」の尾根で故郷を振り返りながら、家族との別れを惜しんだ姿が浮かんできます。

多摩丘陵～里山の自然

「多摩よこやまの道」の尾根道は暮らしの道でもありました。農林業が生活の中心だった時代には、多摩丘陵一帯に田園風景が広がっていました。「多摩よこやまの道」には多摩の農村風景が所々にのこされています。多摩丘陵の南側(町田市、川崎市)、北側(多摩市、八王子市)の両岸を眺めながら、尾根沿いに残された里山ともふれあえる道です。

赤駒を山野に放し捕りかにて
多摩の横山徒歩ゆか道らむ

3.(丘の上の広場)～黒川散策路への分岐点



「丘の上の広場」を下り先へ進む 11:02



心地よい木漏れ日の整備された山道 11:05



黒川よこみね緑地の山道を進む 11:08



山道脇のススキの穂が秋を告げている 11:09



諏訪ヶ岳山頂 144.3mの標識と三角点 11:22



三角点のある小広場で小休憩 11:23



瓜生黒川往還の山道 11:25

「瓜生黒川往還」

「多摩よこやまの道」に交差するこの山道は、川崎市麻生区の黒川と多摩市永山の瓜生を結んでいた江戸時代頃から近代にかけての往還道で、昭和の初めまで黒川の特産品であった「黒川炭」や「禅寺丸柿」などを八王子方面や江戸市中に運ぶ近道でもありました。また、武蔵六所宮(現多くに魂神社)の神前に供える汁物を調整していた黒川の汁守神社前からこの尾根までの間に、「街道」を意味する「海道」の字名が今でも残っています。

4.(黒川散策路への分岐路)～もみじの広場～展望広場(防人見返りの峠)



古代東海道と丸山城

相模の国府と武蔵の国府を結ぶ古代東海道

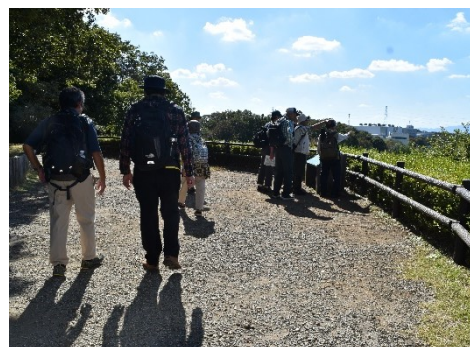
「かつて日本の古代にも、ローマの道のように、全国から都に集まる大道(道の最大幅 12m)が七本あった」これは、近年の研究で判明しつつある成果です。飛鳥時代後半から平安時代初期にかけて、都と東国とを結んでいた古代東海道は江戸時代の道筋とは異なり、相模の国府と武蔵の国府を結び、多摩丘陵の町田市から多摩市付近を通っていました。この道は唐(中国)の制度にならって作ったと考えられ、防人や朝廷の軍隊、特別な任務を持った官人たちが頻繁に行き来し、税納物や朝廷直営の牧から選ばれた良馬が多摩丘陵から都へと運ばれていたと想像されます。古代東海道は、多摩市蓮光寺本村の打越山遺跡から発見された道路跡(道幅 9～12m)や、馬引沢にあった「大曲」という谷、諏訪団地の中央を通っていた「沖の谷戸」という細長い谷、給食センター上の畑地や近くの「並列する古道跡(複線の古道跡)」につながるとみることができますが、現在のところそのルートは未だ確定されるには至っていません。

丸山城と烽火台

この正面の斜面上にある高台(現・黒川配水場)の付近を黒川側の人々はかつて丸山城と呼んでおり、中世の通信基地としての物見や狼煙台(煙を高く上げて連絡をとる施設)が存在したとも考えられます。また古代の東海道が存在したならばそれに沿って、中国の唐の制度にならった古代の烽火台(とぶひ=火を高く上げて次の中継地から目的地へとつないでいく施設)が併設されていた可能性もあり、ここに続く中継地と考えられる南方の野津田上ノ原の高台には「飛尾」「飛平」などの地名も残っています。



「もみじの広場」へ向かう途中の分岐点に設けられている「古代東海道と丸山城」に関する案内掲示板



尾根道を進み「もみじの広場」経由「防人見返りの峠」へ向かう 11:28～



「防人見返りの峠」の
標柱にて記念撮影 11:30





「防人見返りの峠」から眺めたパノラマ実写景観 11:35

防人見返りの峠（多摩丘陵パノラマの丘）

多摩
よこやまの道



東西に伸びる弓なりの屋根道

この尾根の高台は、東西（左右）に伸びる多摩丘陵の長大な尾根の上にあり、その全体が弓なりになっているのが見えます。この尾根は、西は町田市相原町を経て相模原市城山町の城山湖にある後方高台の「三沢峠」、東は多摩川に面した多摩市連光寺向ノ岡まで通じています。合わせて全長約 24km の尾根となり「多摩丘陵の背骨」とも呼ばれています。

富士山や丹沢・秩父連峰の山並み、狭山丘陵も見られる丘

この丘は標高約 145m で、南西～北東にひらけた展望ポイントです。西は夕景が美しく、富士山や丹沢・秩父連峰の山並み、北西方向には多摩川や浅川に面した七生丘陵、広大な武蔵野の向こうには遠く狭山丘陵も眺望できます。ここから見る風景は、太古以来の先人たちも繰り返し眺めてきたことでしょう。多摩ニュータウンの建設に伴い、約1千カ所の遺跡発掘が行われました。現代のニュータウンの下に、はるか昔、縄文時代のニュータウンが存在したことがわかったともいわれています。

歴史ある豊かな農村から新しい街へ —— 多摩川とその支流の恩恵に育まれ、大地と接してきた人々により永々と暮らしが営まれてきました。今、その穏やかな風景がよみがえってきます。

歴史監修 宮田太郎

「防人の見返りの峠」にある説明看板

パノラマ風景を背にして記念撮影
11:35





「ヤマナラシ」の標柱のある見晴台（防人見返りの峠） 11:42

「ヤマナラシ」標柱の記述内容

ヤマナラシは丘陵から山地にかけての尾根すじに生えるポプラの仲間です。材が箱を作るのに用いられるので別名「箱柳」とも呼ばれ、多摩の丘陵ではまれにしか見られない樹木です。葉の柄が長く平たいので微風でもサワサワと音を立てるところから「山鳴らし」の名前があります。樹皮には独特な菱形模様が浮かびます。



「多摩よこやまの道」の標石 11:42

5. (防人見返りの峠)～常緑樹林の散策路～古道五差路



常緑樹林の散策路を進む 11:43



「分倍河原合戦と県境の尾根」の標柱 11:46

「分倍河原合戦と県境の尾根」

「梅松論」の記述やこの付近の伝説から、元弘三年（1333）五月十四日、鎌倉幕府を滅亡に追い込んだ分倍河原合戦の前夜、多摩川の北に陣取った新田義貞の大軍を迎え撃つべく鎌倉を出発した北条家軍二十万騎の大軍勢は、当時小山田庄（荘）内であったこの尾根の川崎市側に篝火を焚いて息をひそめて野営し、翌早朝から多摩川で大激戦に突入したと考えられます。



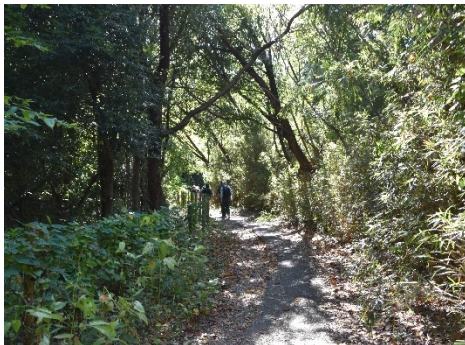
11:49



11:52



11:53



11:55



東西順路と尾根幹線道路の三叉路道標 11:57



「古道五差路」分岐点付近 11:59



12:00

「古道五差路」と軍事戦略的な鎌倉道

ここは小野路町別所と多摩市永山の境界にあたり、古道が集まる五差路です。堀切を持つ関所跡の様な場所（現在消滅）、頼朝の弟・源範頼の念持仏をまつたと伝わるお寺や鎌倉時代初期（弘安四年・1281）の大板碑、源氏の戦いの伝承地（鶴川団地）などが近くににあります。南北朝時代頃から鎌倉や小田原などへの近道として発達したと考えられるこの鎌倉道は古戦場伝説や古墳が残る別所の高台（三社大権現、富士塚古墳）を乗り越えて、野津田や金井、本町田へと続いています。交通の要衝である小野路の宿や野津田上ノ先へ回り込む早道であったと考えられます。

6.(古道五差路)～鎌倉海道～一本杉公園



12:01



12:03



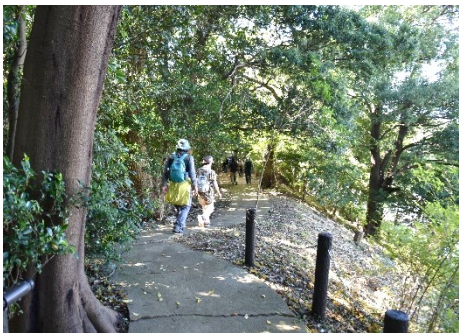
12:05



左：多摩東公園・右：一本杉公園の道標 12:08



一本杉公園方面へ進む 12:08



12:12



妙櫻寺霊園 12:15



妙櫻寺(日蓮宗)本堂 12:17



恵泉女学園大学・大学院校舎 12:23



一本杉公園入口到着 12:23



園内の景観／芝生広場－1



園内の景観－2



歌 碑



旧有山家(多摩市指定有形文化財)にて昼食休憩 12:26



「参考情報 1」参照
万葉集にも歌われた防
人の妻の心尽くしの歌
本資料2頁

赤駒の
山野に放し
捕りかて
多摩の横山
徒歩ゆか
遠らむ

市指定有形文化財「旧有山家」

主屋は昭和56年に多摩市乞田の有山茂章氏より寄贈を受け、解体・保管していたものを復元しました。この民家は、江戸時代の建物と推定されており、建築当初の間取りは、桁行6.5間、梁行3間の広間三間取型でした。(中略)

復元にあたっては、茅葺屋根を茅葺形銅板茅葺屋根とした以外は、できる限り原型に忠実に復元しました。
(多摩市教育委員会資料より)

<古民家「旧有山家」にて昼食>



昼食休憩後古民家下で記念撮影



一本杉公園通り



一本杉公園開園に当り昭和 57 年 4 月 29 日に記念として川上哲治により杉の木が植えられたが、その杉が 15m まで成長したところで杉溝腐病により倒木の危険があることから平成 27 年 3 月に伐採することとし、ここに記念碑を設置されたとのことである。



一本杉公園内の天然記念物指定「すだじい」の大木 13:15

多摩市指定天然記念物
一本杉公園
すだじい (フナ科)
目通り幹囲約三・六m、高さ約十六m、枝張り
は約十一m、きれいな半球状を示しており、樹勢
は大変良好です。
この付近は昭和四十八年に多摩市に編入される
までは町田市小野路町といい、付近一帯広い雑木
林でした。このすだじいは、その頃の面影を今に
伝えています。
すだじいは暖地に生えるフナ科の常緑高木で、
秋になると先端の尖った堅果実を实らせませす。
昭和四十九年十二月二十日指定
多摩市教育委員会



天然記念物「すだじい」の紹介立札記述内容



各種の石柱を配置した「石の広場」 13:22



一本杉公園を出てバス停へ向かう



多摩センター駅へのバス停に到着 13:27

7. (一本杉公園)～(解散)・(希望者有志)多摩センター極楽湯・懇親会



多摩中央公園で下車 13:52



多摩センター極楽湯へ向かう 13:54



多摩センター極楽湯に到着 13:57

<多摩センター極楽湯>



温泉「多摩センター極楽湯」建屋正面外観



「極楽湯」施設入口の門をくぐり入る 13:58



温泉施設入口



入口の飾り付け



1階の売店等のあるホール



温泉に入った後、和室の宴会場にて懇親会（10名参加）



生ビールで乾杯！・・・温泉で疲れを癒した後の味は格別でした！・・・そして楽しい歓談のひと時をありがとうございました！

完